

R-18  
Adult Only

そうして  
いつかの  
恋をする



# そうして いつかの 恋をする

- 主人公名は藤丸立香を使用
- 終局特異点を終えた後の時間軸
- 弓ギルが初期からいる設定なのでぐだにめっちゃ甘だったり  
時間が無くてぐだの令呪が消えてたり弓ギルの入れ墨が無かったり  
その他色々ゆるふわ時空なので  
なんでも許せる方のみどうぞ





あの日の光景を

今でも鮮明に思い出す

自覚はそこから

でも

この想いはきつと  
そのずっと前に  
芽吹いていたものだ

そうして  
芽吹いたものを  
見ないふりして  
失った恋だ

キャスター  
ギルガメッシュ

ウルクの危機に応じ  
この姿で現界した

貴様の召喚に  
応じたのではない

付けあがるなよ

雑種…





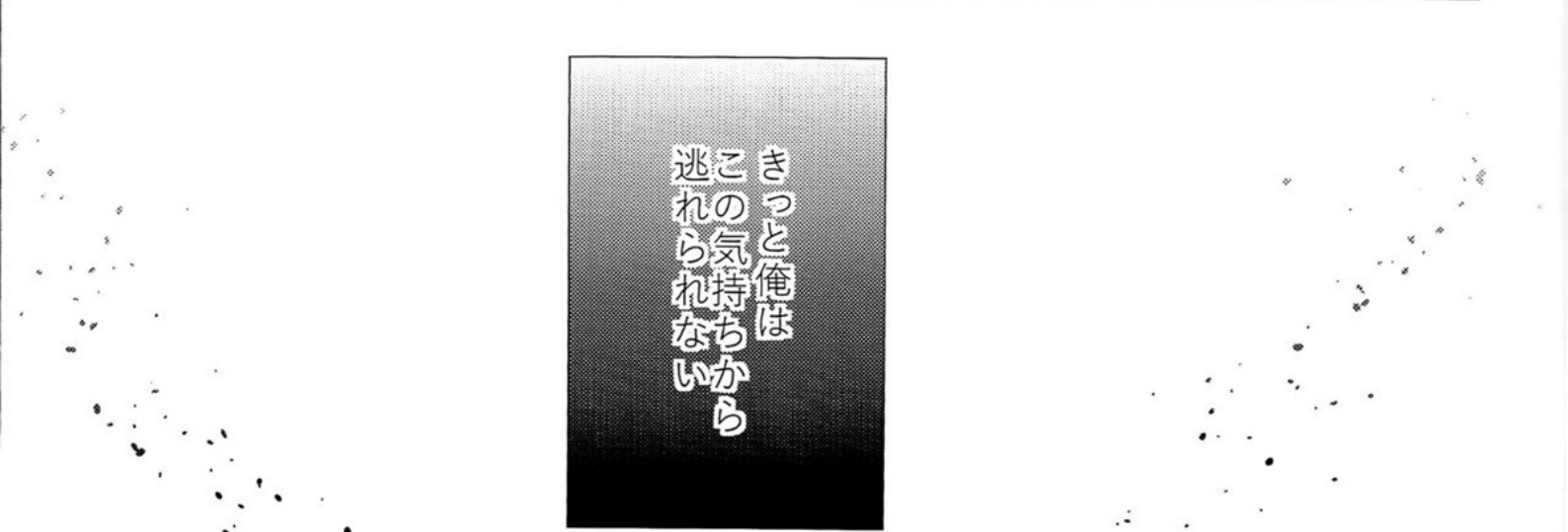
立香



相変わらず  
気の抜けた面よな



—ああ、だめだ



きっと俺は  
この気持ちから  
逃れられない

そうしていつかの恋をする

ぽつりぽつりと  
拾い集めた欠片は

その存在が  
身近になって  
一気にあふれてしまった

—なので

王様

好きです



大分  
ミレでよからう

—そうか

ありがたう  
ミレします

そうです  
好きなんです

ふむ

凡夫たる貴様が  
我に惚れるのも  
無理はなからう

だが、







—はい



なればこそ  
最終特異点を目前に  
そのような事に  
うつつを抜かししている  
場合ではなからう



なので  
ガス抜きと  
いうか

黙っていると  
多分もっと  
うつつ抜かすので



今のはきつと  
わたくしの  
聞き間違いとは  
思いますが！

ますたあ！

貴様は—

よりによって  
そこに行くか  
きみは



悪いことは言いません  
今一度ゆつくり寝て  
心を休めた方が  
よろしいかと

賢王とはい  
ガイルがメッ  
ですよ

告げて  
よかったことは

やはりこの想いがと  
結実するはずないと  
明確にできたこと



告げても  
変わらなかったことは



それでもどうしても  
この気持ちは消えずに  
想ってしまうということ



されど  
日常を取り戻す旅は  
目まぐるしく



一度吐き出した想いに  
ふけるような時間もないまま





—なんとか  
乗り越えて

いよいよ  
うつつを  
抜かしてしまう日々が  
始まってしまった

は——…

王様ちゃんと  
休めてるのかな

人理修復から二つち  
ずっと働き通しじゃない？

出来る人が  
やるしかない状況だから  
仕方ないってのは  
わかってるんだけどさあ



そも英霊の身となれば  
生前のように  
過労死などという失態を  
さらすこともなからう

貴様のよう  
に情眠をむさぼる  
必要もない故な



ふん  
我が知るか



っていうか  
ギルガメッシュだって  
寝汚いじゃんか

そりや  
体力はあるかもだけど  
気疲れとか  
そういうことだよ



我は王として  
泰然とかまえ  
日々ゆるりと  
過ごしているだけの話よ

貴様ごときと  
まとめるでな



不敬な口よな

いまだ





そうだとっても  
俺が見てて  
心配なんだって



気疲れは知らぬが  
疲労による昏倒の憂いも  
無い以上  
あれも好きで  
根を詰めているのだろう



凡夫らしい  
エゴだな

だよな



斯様な心配こそ  
無礼であろうが



——吐き気がする



身勝手に

あさましくて



でも  
そういうもんだよ  
好きって







貴様が長じた我に  
翻弄される様は  
愉快ではあるな



酒の肴程度にでも  
なってくれているなら  
何よりですよ

はは



ふん



確かに  
恋だ愛だと見戯に等しい  
茶番に翻弄されている様は  
滑稽である故  
多少は杯の進みもよい



貴様がそれを  
望んでいるのだろうか

うわ？  
青少年の  
純情可憐な恋心を  
あざ笑うなんて  
いい趣味



うん

ありがとう  
ギルガメッシュ

どうせならもっと  
笑って

嗤って

この感情を  
形もなくて  
殺し跡ほしく

あの日からずっと  
そう願って

その役目を彼に  
押し付けている

聞いたぞ  
雑種!!

貴様  
キヤスターの我に  
ふられたそうだな!!!

バマママ





デリカシーがない……

って、いうか  
どうやって  
入ってきたんですか

俺今すっごく  
腫れもの扱に  
されてんの扱い

どよん……



あまりにも  
愉快がすぎる  
貴様が悪い

この程度のロック  
我にかかれれば  
無いに等しいわ

明日にも最終局面かという  
この時期にぶちかまして  
よもや添い遂げられると  
信じたわけでもあるまいに

どがっ



身の程知らずの  
想いとはいえ  
無様にも程があるう





死ぬ気も  
死なせる気も  
ないけど

告げたいと思ったときに  
ちゃんと伝えて  
おきたかったただだよ

こんな時に  
なんと愚かな者かと  
思われてもいい

知られぬままが  
一番の後悔だから  
エゴを貫いただけ

だから  
返してもらおうとか  
そういうのは  
全然なくて

でもやっぱり  
受け取り手のない  
想いはしんどいから  
消化してたところ

なるほどな

貴様の  
その姿勢が…

—いいや  
よいか

まあ貴様を  
取り巻く状況が  
愉快であることには  
変わりない

その感情は  
いつでも我が  
笑い飛ばしてやろう



—ありがとう

思いあがるな  
貴様のためではない  
私の楽しみのためよ

他の英霊達のように  
いさめるでもなく  
後押しをするでもなく

どうしても  
在ってしまうこの想いを  
わらってくれる存在は  
心地よく

人理修復を終え  
よりいっそう  
募るばかりの想いを  
抱えた俺は

許されるまま  
ギルガメッシュの元で  
過ごす夜が増えていた

寝ちゃった







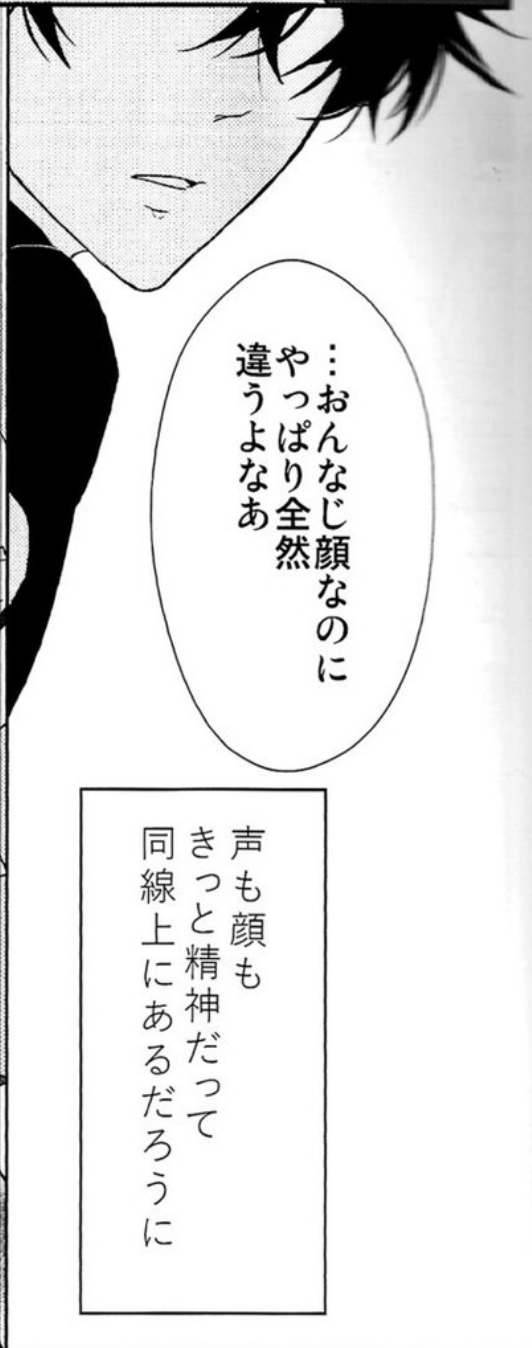
『身の程知らずの  
想いとはいえ  
無様にも程があるう』

…ほんと

嗤っちやうよな



それでも  
どうしようもなく  
焦がれるのは  
あの王様ただ一人



…おんなじ顔なのに  
やっぱり全然  
違うよなあ

声も顔も  
きつと精神だって  
同線上にあるだろうに

マスターは昨夜も  
あの英雄王様の所で  
おねんねってわけか

——で

よく  
食われてねえな

ギルガメッシュは  
物好きだけど  
悪食じゃないでしょ

マリリンと違うんだから  
好色扱いよくないよ

さて  
どうかな

だとしても  
ここはそういう輩が  
多いから気をつけろよ

つかあれこそ  
英雄色を好むの  
典型だろう

うん？

わか

うーん  
わかってねえなあ

ぱっ

あ！





ごめんキャスター  
俺王様に  
聞きたい事あるから  
行くね

心配してくれて  
ありがと

おう

……ま、



マスター理論に依る所の  
一番の悪食はずいぶんと  
辛抱強いもんだがな

歳食った分  
あっちも  
枯れてんじゃねえの

霊基から  
消しとびてえのか  
お前

命知らずだな



歳くったぶんだけ  
理性で本能おさえる術に  
長けるんだよ

よく覚えとけ  
若造



さすが年の功は  
言う言葉に  
含蓄があるねえ

じじい扱い  
すんなよ



まあ本能が  
消えたわけじゃねえから  
ぶっとんだ時が見ものだが



それに

年の功なんざ  
その前じゃ無意味さ





対バーサーカーを  
想定した編成なんですけど  
決め手にかけてて  
礼装迷ってるんです

…悪くはないな

されど――

む

またシミュレーターの  
エラーか

人理修復を終えても  
すべきことが  
泉のように湧いてくるな

短期で落とせるなら  
この礼装が良いが  
耐久も視野に入れるなら  
こっちで様子見だな

ありがとうございます！  
ごさいます！

えーと  
じゃあ俺はこれで  
失礼します



待て

全然  
話せなかったな

隈がひどい



はっ

あ…ッ

いらぬ手間を  
増やさぬよう  
体調の管理くらい  
しっかりしておけ

すみませんッ



——貴様の纏う  
新たな礼装が  
近々仕上がるようだ

合わせて  
シミュレーターの  
再構築も終われば  
休む暇はないぞ





貴様の凡庸な頭で  
無駄に根を詰めた所で  
益にはならん

我のように  
過労死なんぞしたら  
洒落にならんぞ

休めるうちに  
休むのも責務よ

べっ  
いっ!!

此度の山を越えれば  
相談に応じる時間も  
シミュレーションに  
付き合う時間も  
出来よう

我を退屈させぬよう  
心身ともに万全に  
整えて置け

……はい

いいい……

……ッ

カアアア



だって一番よく眠れるんだよ

ここは貴様の安眠室ではないぞ



その限<sup>れ</sup>でもか

これでも、だよ



は  
ああいう所

ずっるいんだよな...

気遣いのできる賢王さまめ



シミュレーター  
使えないから  
せめて報告書の手伝いとか  
魔術書でも読もうかと  
思ったんだけど難しくて

慣れない頭脳労働分  
ぐっすり眠れるかと  
思ったんだけど  
逆に目が冴えちゃってさ





一人じゃ  
平穏な夜は  
長すぎて

どうしようも  
ない事ばかり  
考える



愚かよな

本当にね



好いた人と  
同じ顔から発される  
言葉は心地よい

慰めでも  
ないでもなく

だからここにくると  
安心するんだよ



身の程を知れるのは  
とても有難いことは



そろそろ  
安眠分の対価を  
払ってもらおうか





せいぜい  
楽しませてみせよ

終わった……!

みんなお疲れ様

これでようやく  
シミュレーターも  
通常運転にもどりそうだ

あとは試運転で  
走らせてみるだけ  
だから私が見よう

今夜はゆっくり  
休んでくれたまえ



藤丸くんの新礼装も  
仕上がりしましたよ！

例の試作の  
調整しただけですけど

おお！

これは似合うね！  
早く着せてみたいな

ベストに眼鏡は  
いいチョイスだよ

そうなんですよ  
かなり体にフィットする  
仕立てなんで着てみて  
また調整しなきゃ  
なんですけど

藤丸くん  
なんでも似合うから  
着せ甲斐がありますね



まだ夜も早い

さすれば明日の  
午間も省ける

試着程度なら  
呼び出せばよからう

でも藤丸くん  
最近…

えーと  
現在地は

あ、やっぱり  
今夜はまずいです



ん？  
ああなるほど  
今夜も  
英雄王のもとか

彼は気難しいから  
眠りにつく所  
変に声をかけて  
機嫌を損ねてもまづ

急ぎでもないし  
明日でいいし

！





あれが、

若い我の  
もとに？

そうなんだよ

えーっと  
いつからだっけな

もう一月は  
経ってますよ



夜自室にいない時は  
彼の所で休んでることが  
多いですね

あの英雄王の寝所で  
眠れるとか  
怖いもの知らずというか  
なんというか

でも藤丸くんからしたら  
最初期からの英霊だし  
信頼してるんじゃない？

そもそも  
ギルガメッシュ王が  
懐にいられているのが  
こわいよ

三の世の贅と快楽を  
意のままにした  
英雄王の全盛期って



今頃ぺろっと  
食べられてても  
おかしくない――

はっ

そそっ







——そこな  
若造

疾く  
其の痴れ者を  
此方へ渡せ

いくら  
我とはいえ

寝所に踏み入るなぞ  
無粋であるう





いつまで我に御守を  
任せるものか  
とんと音沙汰も  
ないまま故

そちらは  
枯れたものかと  
懸念していたが



そうだと  
楽しんでいる



だから無粋だと  
言ったのだ



黙れ

貴様は  
楽しんでいる  
だけであろうが







同じ顔なら等しく  
飛びつくとは

畜生もあきれ  
見境のなさよな



—え？



はっ  
そんな顔をするならば  
まだるっこしい過程を  
踏まずに

はなから平らげて  
腹にでもしまっておけば  
良からう





——生憎

我は貴様ほど  
短慮ではないのでな



——安眠分の  
対価は得た

まあ翻弄される我  
というのとは  
なかなかの  
見ものであったか



それで  
どこに思慮深さが  
あるというのだ



壊されぬよう  
せいぜいあがけよ  
マスター

……

……えっと、

状況が  
よくわかんないん  
ですけど

あれって  
ギルガメッシュ王  
ですか？

なんで脱ぐの  
なんで脱ぐの

確かによくは  
もらってますけ  
それは――

あれとは  
随分長いようだ





悦くして、か

あれも  
手ぬるくなった  
ものだな



——体、  
動かない？

……あッ



ち、が…

まあ  
よからう



しかし早々に  
若輩の我に  
鞍替えとは貴様も  
切り替えが早い



!?

ど  
ち  
ら  
が  
格  
上  
か  
身  
を  
も  
っ  
て  
知  
る  
が  
よ  
い

……っ

ム  
くっ

あ

ぐ  
ん

や

ぐ  
っ

はっ

んっ

いた

はあ

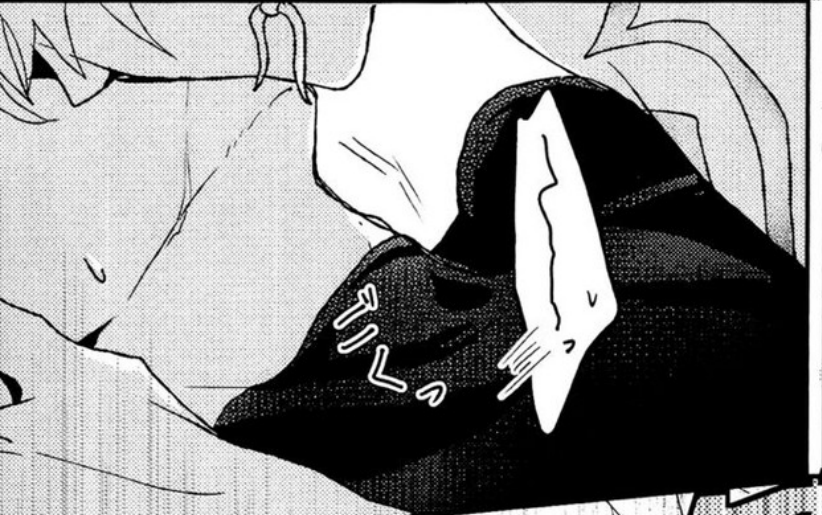
















感度もよいか



生来のものか  
仕込まれたか

あれも  
趣味をし  
ているな



ちが

びく

は

きんがっめ、  
しゃんは...

何が違う



夜ごとあれのもとに  
通っていた  
らしいではないか

まあ顔が同じく彼奴の方が  
付き合っても長いとなれば  
致し方なからうな

しかし  
我も随分虚仮に  
されたものよ

ひょっ

ぬちっ

ひっ

貴様に違いが  
わかればよいがな

…ッ

だから

違うってのっ!!!

……ッ

……ッ

一体  
どういう料簡だ

き、さまあ…







それを早く  
言わぬか

...

は  
—  
...

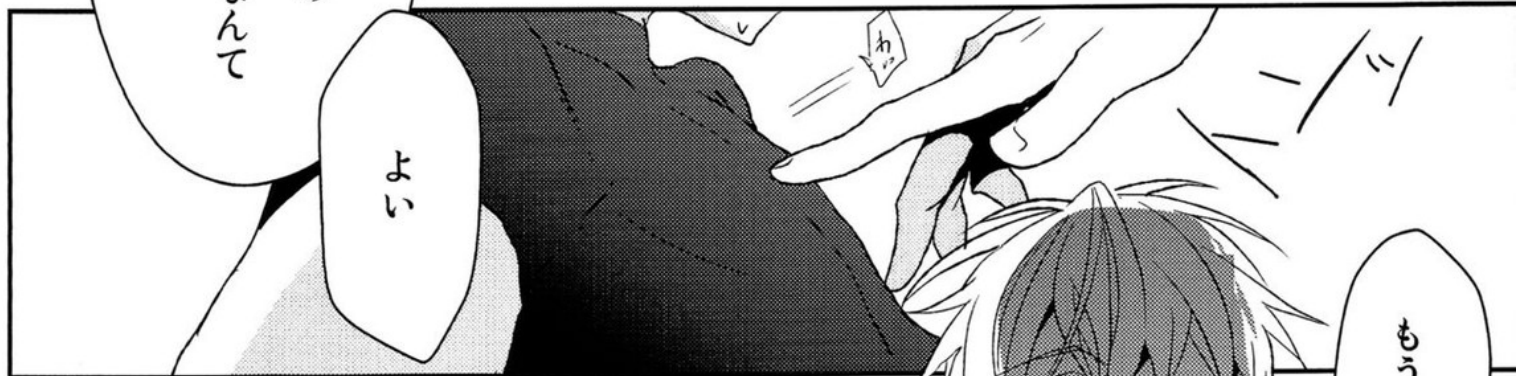


おっ

聞く耳  
持たなかったのは  
王様の方でしょう

第一あの英雄王の  
王様と俺が  
そういう事するなんて  
誰も—

よい



もう黙れ



どっちですか  
それ...

って



ひっ

びく



大人しく喘いで  
我を萎えさせるな













それじゃあ  
こちらの言い分も聞かずに  
色々すつとばしたことの  
説明をお願いできますか

いたた…

初物への  
扱いがひどい

……



ふん  
貴様が  
誤解を招くような  
行動をとるから悪い

それは  
こっちのセリフ  
なんですけど

あとこれじゃない服  
貸してもらえませんか  
全然隠れないんですけど  
このケーパだとい



…論外

だよなあ

「じゃあ、  
英雄王のもとに  
いったと思ったら  
惜しくなっただけですか



なんですか  
まさかですけど  
王様オレの事  
好きなんですか

なんつって





—貴様は、

自分の気持ちを  
告げるだけで良いと  
はなから私の返答を  
諦めていたであろう

え…

確かにあの時分  
斯様な事にうつつを  
抜かしている暇が  
なかったのは真だが

貴様が一人で  
先走ったせいで  
私も機を逃したのだ

あのような場で  
告げたせいで周囲が  
うるさすぎたであらう

そも  
我は貴様の言に  
否とは言って  
おらんだろうが

いや、  
でも…



確かにあの時は  
そんな暇も  
なかったですけど

でも  
人理修復する前も後も  
王様俺に対して  
なんにもなかった  
じゃないですか

たわけ

今度は我の暇が  
なかったであろう

彼奴の抜けた穴は  
あまりに  
広大であったからな

ようやく落ち着いたと  
思ったら貴様は  
若い我に目移りときた

少々血がのぼって  
判断力が落ちて  
いたのは確かだが

貴様も誤解を招く  
行動をとったのは  
事実であろうが

……王様と違って  
俺は少しばかり  
余裕が出来たので

貴方のことばかり  
考えて  
しんどかったんですよ

ギルガメッシュの所は  
気も使われないし  
適度に気を張るしで  
考えすぎないから  
居心地よくて

命の危険と  
紙一重では  
あるんですけど  
よく眠れたから

このような跡を  
つけられながら  
惰眠とは  
ほんととあきれ返るわ

ぎゃーっ!?

いじゃん

いった  
跡って?

気づいても  
おらんとは

呆れた危機感の  
無さよな



は

良いか  
よく聞け

ハッ

ついで言うならば  
貴様以外と  
斯様な時間を  
作る予定もない

若い我ならともかく  
今の我はとにかく忙しい

どうしてもよい相手に  
このような時間を割く  
義理も暇もない

貴様相手だから  
設けた時で有る事を  
喜び理解せよ

すろっ







なんだ？

よもや彼奴のもとでは  
眠れて我のもとでは  
眠れぬ道理があるわけでは  
あるまい

—でも…



いやだって  
好きな人と眠るって  
急すぎて心の準備  
出来てなくて

…っ



……貴様は…

仕方ないじゃ  
ないですか…

くっそお…

おわっ！？



さっさと慣れろ

これから先幾度  
共寝することにな  
ると思っておる

そんな理由で  
不眠になるなぞ  
我が許さんぞ

ほんと  
こういふところ  
ずるい…

叶わないと  
諦めた

…ッ





告げるだけで良いと  
エゴを貫いても  
捨てられなかった

…はい

そうして  
この腕の中の幸福を  
知ってしまった今

おやすみなさい  
王様



きっと俺は生涯  
この気持ちから  
逃れられない



## シミュレーター再開

※ただしマスターは  
本日お休みなので  
無理のない範囲で

マスターお休みの苦情は賢王様まで

*Leonardo da Vinci*







おたくの賢王サマ  
とうとうマスター  
食っちまったみてえ  
だけど

アンタは  
それで  
良かったのか？



ようやく  
シミュレーター  
稼働したのに  
マスター休みとは  
残念だなあ



ふん  
——彼奴めが望めば  
情けをかけてやろうと  
思う程度にはな

へえ…



じゃ  
抱いてやったのか？



良いも何も  
はなからあの雑種は  
あの老いぼれの  
ものだったであらう

そうかい

アンタも  
そこそこマスターの事  
気に入ってんのかと  
思ってたがな

賢王サマ  
同じ意味  
ないにしろ



この王の情けを賜る  
僥倖を逃すとは  
戯けた雑種よ

『情けも慰めも  
不要だよ』

『顔は同じでも  
俺が好きなのは  
キャスターの  
ギルガメッシュ王だから』



ふん

望んだもんなら  
それこそ首落とすか  
座に還ってたくせによ

よく言うぜ



つか賢王サマも  
さっさと捕まえりやいいのに  
何をまだるっこしい過程  
踏んでたんだか

あの公開告白の折に  
気持ちをも  
返したとしても

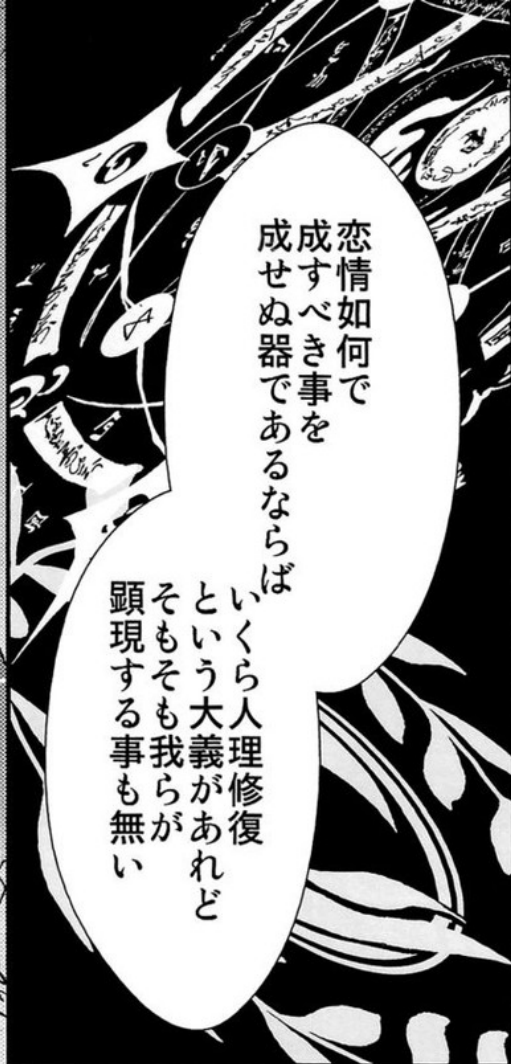
マスターは  
賢王様の言うように  
のぼせることもなく  
人理修復を成し得ただろうに





だが雑種めは  
はなから  
あの老いぼれとは  
叶わぬものと  
諦めていたであろう

あー…



恋情如何で  
成すべき事を  
成せぬ器であるならば

いくら人理修復  
という大義があれど  
そもそも我らが  
顕現する事も無い



そうであろうな



そも諦めるといふ  
選択肢すら  
雑種の浅はかさよ

如何に諦める  
心積もりでいようが  
恋慕の情なぞ自在に  
制御出来得るものか



彼奴自身はそこまで  
考えが及んでは  
おらんだろうが

諦めるといふ事は  
次に他の誰かを  
恋い慕う宣言と  
同義でもある



そのような事を  
許す我ではなからう



ましてや  
そこに当人がいては  
想いなぞ募るばかりで  
あろう



それを叶わぬものと  
王の心を勝手に推量し  
身を引くエゴなぞ  
不敬にもほどがある



今後同じ過ちを  
繰り返さぬよう  
臆も必要だろう



諦めようが目をそらそうが  
逃れられぬと  
自覚させなくてはな

貴様の凡庸な頭で  
無駄に根を詰めた所で  
益にはならん

隈がひどい

ああいう所





さて  
なんの事か



とぼけんなよ

あの賢王サマと  
アンタがこんな  
茶番に振り回される  
たまかつての



なるほどね

で、結局  
どこまでが  
賢王サマの  
目論見通りの茶番  
だったわけ



マスターが  
眠れて無かったのは  
賢王サマの事だけじゃねえ

恋情もだが  
急に平穩になったら  
そりゃ色々考えるわな

ついでにいえば  
罪悪感やら  
焦燥感やらも生まれて  
余計に賢王様とのあれこれに  
後ろ向きだ

だがアンタらは  
それもうまく利用した

おたくといることで  
悪い虫もつかない

他の英霊がマスターの隙に  
気づいたら  
それこそ美味しく  
食われちまうだろうしな

そうして此度をもって  
夜と共に  
安眠を与える役目は  
アンタから賢王へと  
うつった

おかげでマスターは  
見事心身ともに  
賢王様のものだ

：キャスタークラス  
となれば狗風情でも  
少しは頭が回るか

いやなに  
昨夜のアンタらの  
大立ち回り

あからさまに  
マスターが誰のものに  
なったか知らしめる騒ぎ  
起こすのがあんまり  
わざとらしくてな

あの老いぼれの  
思考なぞ手に取るように  
わかる故  
そのままのるのは癪では  
あったがな

少しは彼奴目の  
予想を超えて  
煽ってやれたのは  
愉快であった

我に初物を  
散らされたかと  
泡を食う姿は  
見ものであったぞ

…そうかい

まあ俺は  
マスターがいいように  
人生謳歌してくれんなら  
それでいいがね





——あの特異点では



しっかしいくら同じ  
靈基とはいえ  
あんたにしては珍しく  
協力的だったもんだな



長じた姿故か  
キヤスタークラスでの  
限界故か

賢しいふりをして  
本能を抑える様も  
小癪であったが

それ故斯様な凡夫に惚れ  
愚かな様を晒す姿も  
また見ものであったと  
いうわけだ



ここはいささか  
退屈が過ぎて  
酒の肴が無いからな

斯様な児戯にも  
満たぬ些末事に  
かまける暇も出来ようと  
いうものだ



いくら賢王と  
うたわれたあの我で  
あろうと注力すべき事  
以外に意識を傾ける  
余裕がなかった

故に召喚され暇も出来た  
あれが自覚した姿が  
愉快であっただけの話よ



うーわ

……賢王様の  
純愛とか悪酔いしそう

まったく  
とんだげなものでは  
あったな

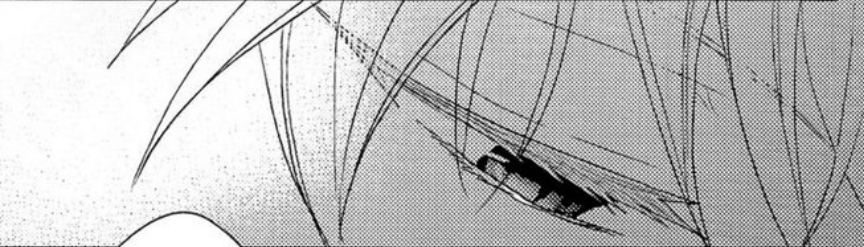
でもまあ  
いつの世も  
どんな賢者も  
愚者に成り果てるのが  
恋ってやつなんだ

あの賢王様が  
理性ぶっとばしてまで  
手に入れたってんだから

しつこくぞ  
あの手の男は

こりやマスターも  
相当な覚悟が  
必要だろうよ





——貴様が  
自覚させたのだ

今生のみでは  
終わらせぬ

責任をもって  
その魂ある限り  
受け止めよ

そうしていつかの恋をする

【そうしていつかの恋をする】

2018年5月3日発行 11月25日第三刷

戯言スピカ/しづき (pixiv:7845923)

MAIL:hakugyokurou@mail.goo.ne.jp

twitter:@tawagotospica

▶ 禁 止 事 項 ◀

無断転載・複写・転用・WEB上へのアップロード

ネットオークション及びフリマアプリへの出品

マシュマロ  
感想フォーム





# そうして いつかの 恋をする

Fate/Grand/Order Unofficial FanBOOK #01  
Gilgamesh【caster】×Master【♂】  
Tawagoto Spica 2018.05.03